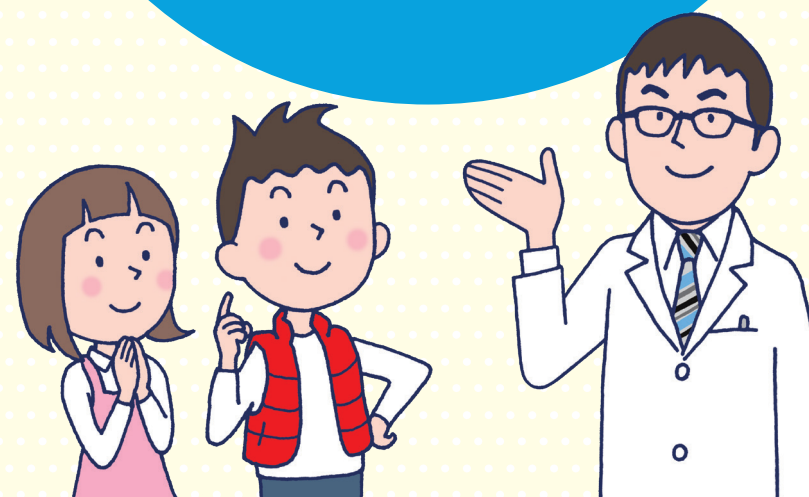




厚生労働省委託事業

もし、クスリが 効かなくなったら!?

細菌やウイルスといった小さな生物が原因となる病気を感染症といいます。例えば、肺炎球菌やマイコプラズマは肺炎の原因となり、大腸菌は膀胱炎の原因となります。このような**感染症の原因となる微生物のうち、細菌を退治する薬を、抗菌薬・抗生物質と呼んでいます。**

近年、効くはずの抗菌薬でも退治できない細菌=**薬剤耐性菌**が増加し問題となっています。薬剤耐性菌が増えると、感染症に効くはずの薬をのんでも治りにくかったり、治らなかったりします。

世界では薬剤耐性菌によって年間127万人が死亡していると推計されています(2019年)。このまま何も対策を取らなければ、2050年には約1,000万人が薬剤耐性菌によって死亡すると言われています。*

薬をのんでも病気が治らない・・・
そんな怖い未来にならないように
するにはどうすればいいでしょう。

* Lancet 2022; 399: 629-655
* Jim O'Neill, "The Review on Antimicrobial Resistance. Tackling Drug-Resistant Infections Globally: Final Report and Recommendations,," May 2016

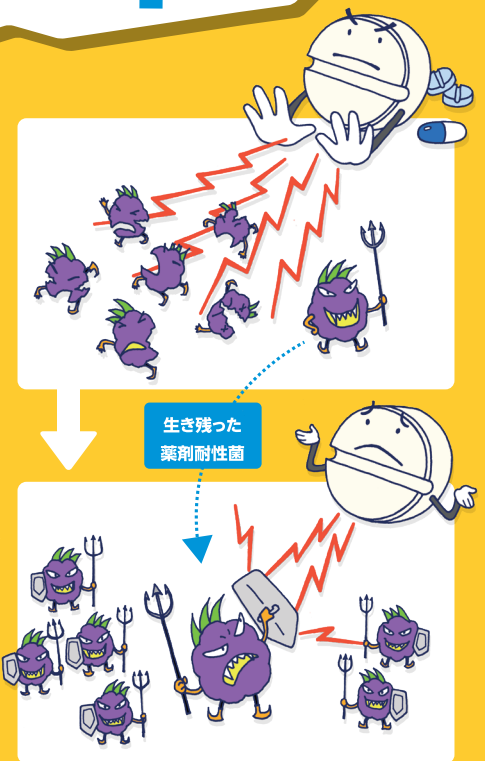


薬剤耐性菌って なんだろう?

わたしたちの体の中には、常に無数の細菌がバランスをとりながら共に生きています。その中には抗菌薬の効かない細菌もわずかに存在しています。

体の中に細菌が入り、肺炎などの感染症にかかった時には、抗菌薬をのんで治療しますが、その時に病気の原因となる菌(病原体)だけではなく、もともといた常在菌も一緒に退治されてしまい、抗菌薬が効かなかった**薬剤耐性菌**だけが残ることがあります。ほかの菌がいなければ、薬剤耐性菌が増えやすい環境になってしまいます。

**薬剤耐性菌を増やさないためには、
抗菌薬を必要な時だけ、必要な量を
きちんと飲むことが大切です。**



薬剤耐性菌は
病院の中だけでなく、
街の中にも広がっていると
いわれています。



細菌とウイルスって どう違うの？

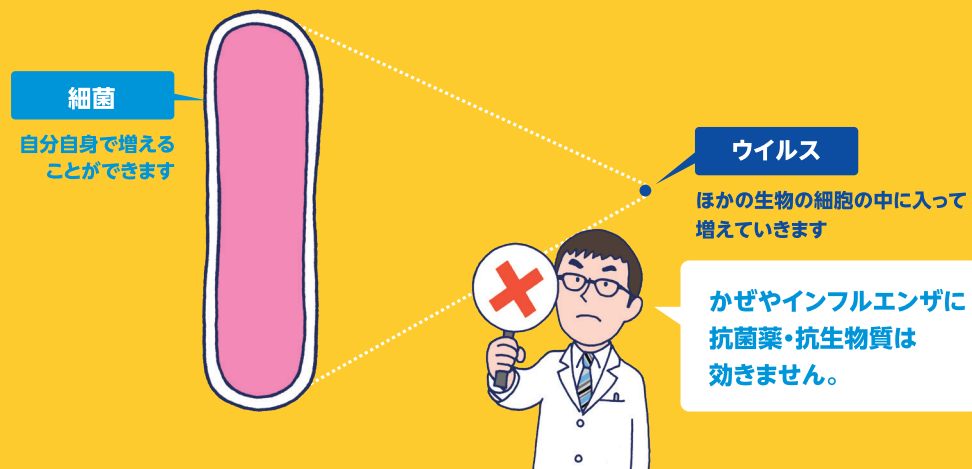
かぜの原因のほとんどは、さまざまなウイルスです。ウイルスには、抗菌薬・抗生物質は効果がありません。なぜなら、抗菌薬・抗生物質は細菌による感染症を治療するために作られた薬だからです。

細菌とウイルスの違いをみましょう。細菌とウイルスでは大きさが全然違います。種類によって異なりますが、細菌はウイルスの約100-1000倍程度の大きさがあります。

また増え方も異なり、細菌は単細胞の生物で、自分が持つ仕組みを利用してエネルギーをつくり、分裂して増えていきます。

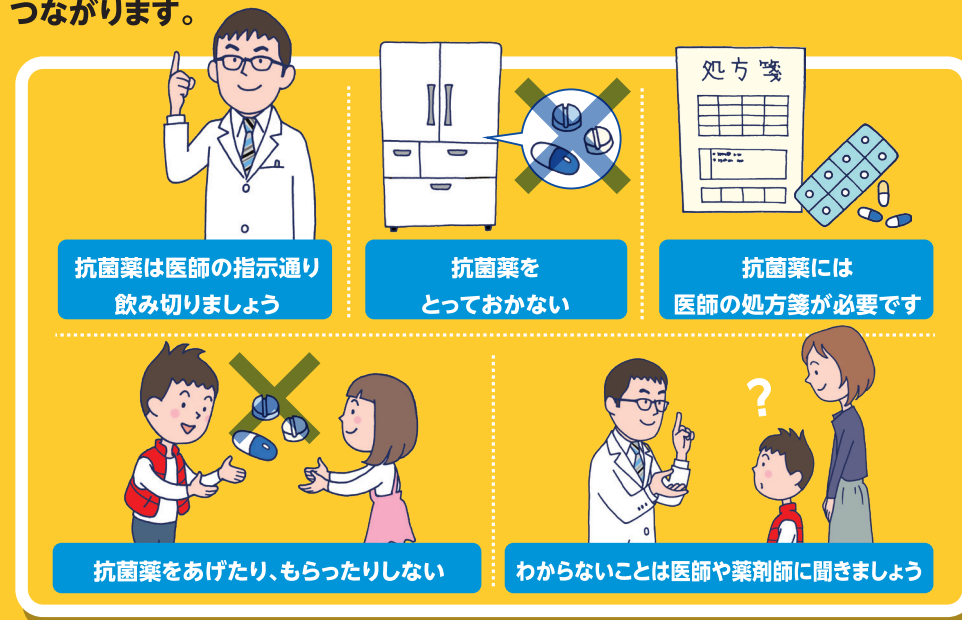
一方、ウイルスはほかの生物の細胞に入り込んで、そこにあるものを利用して増えていきます。

このように細菌とウイルスとは大きさも生き方もまったく異なるので、細菌をやっつけるために作られた抗菌薬は、ウイルスには効かないのです。



クスリは正しく のむことが大切！

もし抗菌薬をのまなければならぬ病気になったら、お医者さんから指示されたとおりにきちんとのおむことが、薬剤耐性菌を増やさないことにつながります。



残った薬をとっておいたり、人にあげたり、もらったりしては絶対にいけません。病気に効かないばかりでなく、副作用で下痢や発疹などが出ることもあるからです。



人も動物も環境も 健康であるように

抗菌薬は人のほかに動物の医療や、農業・水産業・畜産業などさまざまなところで使われています。そのため薬剤耐性菌が食品や環境を通じて人に移ってくることもあります。

人だけでなく、動物や環境もみんなが健康でいられるよう、分野を越えた取り組みがおこなわれています。



きちんと 手を洗おう

よぼう
すぐできる予防①

手は見た目に汚れていなくても、
細菌やウイルスが付着していることがあります。
アルコールによる手指消毒や石けんと水できれいに洗い流す習慣をつけることは、だれにでもすぐにできる感染対策です。



すぐできる予防②

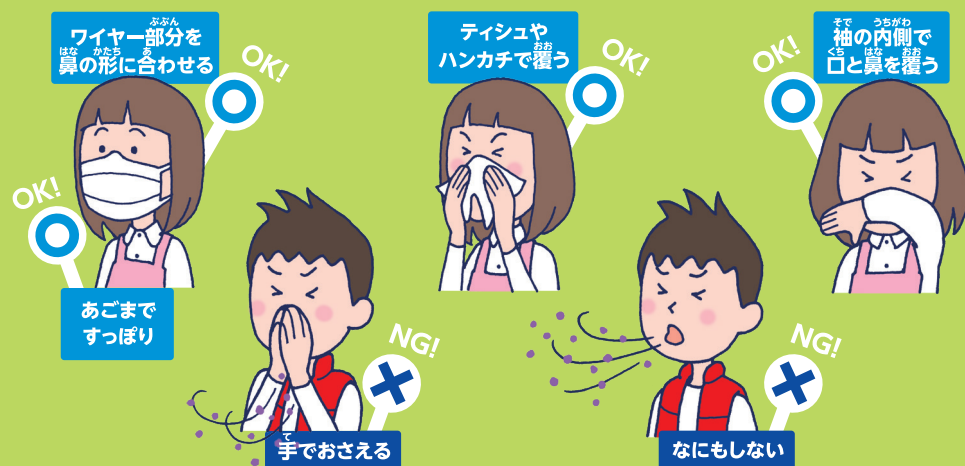
咳エチケットを 守ろう

咳やくしゃみのしぶきは2mくらい飛んでいきます。
しぶきにふくまれた細菌やウイルスが他の人にくっつくと、
その人が感染してつぎつぎと広まっていきます。
咳やくしゃみが出るときは人に広げないエチケットが重要です。

マスクをつける前に手を洗いましょう。

鼻とマスクの間に隙間ができないように合わせて、
あごまですっぽり隠れるようにします。

もし、マスクがないときは、ティッシュやハンカチで覆うか
袖の内側で口と鼻を覆いましょう。



すぐできる予防③

ワクチンで 流行を防ぐ

感染症にはワクチンで予防できるものがたくさんあります。
ワクチンをうつと、体の中に抗体ができ、細菌やウイルスなどの
病原体に対して免疫ができます。

病原体が体に侵入しても病気になる、
病気になっても症状が軽くすむようになります。
ワクチンをうって病気にならないければ、人にうつすこともありません。



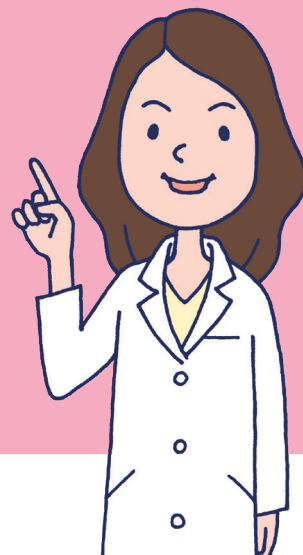
AMR臨床リファレンスセンターについて

薬剤耐性はみんなで考えなければならない問題です。

2015年、世界中の人が集まって、
力を合わせて薬剤耐性に取り組もうという計画ができました。
日本もこの問題に取り組むために、
2016年に「薬剤耐性 (AMR) アクションプラン」という
計画をつくりました。

AMR臨床リファレンスセンターは、
この計画を進めるため、2017年にできたセンターです。
薬剤耐性についてもっと知ってもらうための情報発信や、
日本における薬剤耐性の調査や研究をしています。
みなさんが将来も安心して感染症の治療を
受けられるようにがんばっています。

薬剤耐性菌をつくらない、
増やさないために何ができるか、
いっしょに考えていきましょう。

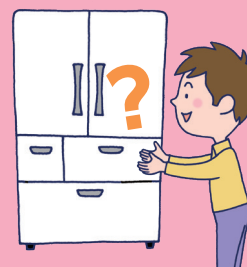


さて、最後にクイズです。どちらの答えが正解でしょう。



朝起きたらかぜをひいたみたいでした。
みなさんだったらどうしますか。

- ① 抗菌薬をのんで、学校に行く
- ② 朝ごはんと水分を取って寝る



冷蔵庫で保存してはいけないものは
何でしょう。

- ① ショートケーキ
- ② 処方された抗菌薬

薬剤耐性や抗菌薬についてもっと詳しく知りたいときは
「薬剤耐性 (AMR) 情報サイト」 <https://amr.jihs.go.jp>



国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター

AMR 臨床リファレンスセンター

Antimicrobial Resistance Clinical Reference Center

厚生労働省委託事業

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 お問い合わせ amr@jihs.go.jp